

平成30年度 概算要求の概要（厚生労働省医政局）より一部抜粋

(3) 医療安全の推進

1	実践的手術手技向上研修事業の推進経費	510百万円(45百万円)
----------	--------------------	---------------

近年、医療安全への社会的な関心が高まるとともに医療技術の高度化に伴い、手術手技の修練もOJTにおいて直接患者で行う前に、シミュレーターや動物等を使用して十分な練習を行うことが求められている。内視鏡等による手術には、実際の死体を使ったサージカルトレーニングが有効であり、医療安全の観点からさらなる普及が必要となるため、サージカルトレーニングを実施するのに必要な経費を支援する。【一部新規】

実践的な手術手技向上研修事業	平成30年度概算要求額510,015千円(44,549千円)	
<p>現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科手術全体が開腹手術から内視鏡等による侵襲性の少ない方式に変化しており、このような手術は従来医療現場で行われてきた実施の医療提供の中での手術トレーニングが困難。 ・内視鏡等による手術には、実際の死体を使ったサージカルトレーニングが有効であり、医療安全の観点からさらなる普及が必要。 ・平成29年4月現在では15機関で実施されているが、既存予算は6機関分しか確保出来ていない。 ・サージカルトレーニングの実施機関が地域的に偏在しており、一部の地域の医師は研修を受けない実態がある。 ・新規実施する場合、新たな器具等が必要であり、経費の観点から新規参入が難しい実態がある。 ・研修医等にも実施することで、外科に興味を持つ医師が増え、減少を続ける外科医対策として極めて有効との声がある。 		
<p>対応案</p> <p>(1) 委託対象箇所数の増(44,549千円 → 80,637千円) 現在独自に実施している大学等に委託費を支出し、より充実した研修を可能とする。</p> <p>(2) 新規実施大学への財政支援(41,937千円) あらたにサージカルトレーニングを実施する大学等に、設備整備に要する費用の一部を支出する。</p>		
 <p>厚生労働省</p>	<p>委託費</p>  <p>既存実施大学</p>	
<p>設備整備費</p>  <p>新規実施大学</p>		
<p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、一部の地域で行われているサージカルトレーニングが全国的に普及される。 ・医師の研修体制の地域的が偏在解消され、全国的に医師の手術技能が向上する。 ・先進的な手術の技能を多くの医師が習得できる。 ・医師の手術技能向上により、医療の発展と向上が期待でき、さらに医療安全の推進にも資する。 ・外科医確保にも寄与する。 		